

ロトス

LOTOSU
VOL. 05 | 2013

3

総発行部数 / 52,800部

無料各戸配布 / 50,800部 無料設置 / 2,000部

名証上場 [証券コード: 2139]

巻頭特集

人形で家族の思いをつなぐ
女流ひな人形作家

とうか
東之華

それぞれの新たな始まりを祝う

春の歓送迎会 前編

自分自身のスキルアップを!

スクールガイド

JIMJO JOB(ジモジョブ)

ロトスの求人情報

表紙協力/人形巧房 ひなや

会員登録して豪華賞品をGetしよう!

ロトス掲載店が
ケータイで探せる!
モバイル版 ロトス

フリモ®



<http://furimo.jp>

フリモ全体のTOPへの訪問回数 1月度 4,371,109回



頭集
巻特

東之華

人形で家族の思いをつなぐ 女流ひな人形作家

ひと飾り、ひと飾り、慈しむように黙々と作業に勤しむ女性がいる。
鹿児島県出身の東之華さんは、草津市民となつて5年。
女流ひな人形作家として、色彩豊かで繊細な人形をつくる。



藁でつくった芯に襦袢から着物、帯を着させる雛人形。実際に着付けてあるので、着くずれしても直せるのがうれしい。人が着ているかのように、ふんわりと動きをもたせた袖に注目してほしい

活発な体育会系女子が出合った しなやかで繊細な人形の魅力

1978年、鹿児島県指宿に生まれた東之華さん。小学校時代はソフトボールに夢中になり、県内初の女子サッカー部を立ち上げるなど、スポーツ大好き生活を送ってきた。18歳で、俳優業をめざし上京するまで地元ではタレント活動をしていたという。テレビドラマやCMなど仕事が増え、体調の変化で休みがちになり、業界から遠ざかるようになっていった。半ば自暴自棄になっていた頃、のちに師匠となる人形作家東之湖（とうこ）さんの人形と出合う。「東之湖さんが百貨店で、近江上布をつかった人形づくりの実演をしていて、こんな仕事があるんだ！というのが第一印象でした」と、それまでの生活とは無縁の伝統工芸の世界。東之華さんは、生まれて初めての感情をもったことを覚えていた。「言葉では表せられない、とにかくすごいと思った」深く押し寄せてきた不思議な感覚だった。「挑戦してみたい！」という強い思いで、人形について、布について、着物について

一生大切にされる人形をつくり ずっとこの地で見守り続けたい

多くの人と触れ合うことが刺激になり、勉強になると話す東之華さん。子どものために人形を購入しに来る母親との年齢が近く、感覚を学ぶことも多いという。地域によって人形の飾り方や雛人形、五月人形など節句の人形の風習は違う。他県からの人も暮らす草津では、新しい発見の中で勉強ができると喜ぶ。

「私がつくる人形は、色彩にこだわっています。決まった色ではなく、その家族のイメージや子どもに対する思いを表現しています。白から桃色へと色を段々濃く変える着物のひだは、桃の花が色をつけていくところを表現していたり、葉の紅葉をイメージしていたりと、それぞれ意味があるんですよ」と目を輝かせて話す。なに「ことにも、まっしぐらな東之華さん。着物がもつ深い意味と繊細な魅力の虜になった。

「人形店という、一生に何度も足を踏み入れる場所ではありません。その貴重な一度を大切にしたい。こんな人形みたことない！と言われると、やったー！と思いますね」と子どものような笑顔になる。

古くから続く人形づくりの世界で、雛人形には赤い着物というのが通例だった。しかし反物店に足を運んだとき、「こんなにも素敵な生地があるのに、どうして使わないのか。職人だって、きれいな生地をもっと世に出したいはず。お客さんだってオリジナルの人形はうれしい」。そして生まれた、今までにない衣装の色遣い。

「平安時代は着物に娘への思いを込めたり、男性への気持ちを伝えたりしました。結構派手なものを着ていたんですよ。その時代



東之華さん

「女性にしか分からない繊細な感覚で人形をつくり続けたい。お客さんからいただく課題を解決しながら成長していけたら。納品は必ず購入者の自宅に足を運び、飾り付けをする。そこで子どもに親や祖父母の気持ちを伝えている

ありとあらゆることを独学で学び始める。小学生でサッカーチームをつくるほどの行動派だった東之華さん。心を受けた衝撃をそのままにできなかった。東之湖さんの実演日程を調べては、何度も足を運び、直接話をした。師匠の色遣いに惹かれ、見るようにして技術を盗んだ。

ものづくりには、つくり手の人間性が濃く出る。大病を抱えながら人形づくりに取り組み東之湖さんのおおらかさ、やさしく話に耳を傾ける人柄に惹かれ、「自分が俳優業を諦めようとしていた悩みの小ささに気づいた」という。すぐには弟子として受け入れられず、何度も何度も足を運んだ。「弟子になる前に、京都の人形を見たり、人形の歴史を知るといい」という言葉におされ、各地の人形づくりを見て回った。数年後、ようやく東之湖さんの弟子に。五個荘で修業をつみ、草津に来たのは5年前。日本全国からいろいろな年代の人が集まり、異なる文化を持つ人が暮らす草津がいい、という師匠の勧めだった。東之華は「華やかに飛び立つてほしい」という思いをこめて師匠がつけてくれた名前だ。

の女性は色彩豊かだったんです」と話す。着物や色の意味を知って飾る人形には、愛着もひとしお。職人として極めた技をもって、飾る人の思いを形にする。「一生喜んでもらえるには、どんな人形が良いかを常に考えています。家族3代が一緒になって人形を選ぶ姿には、その家族の絆のようなものが見え、こちらが幸せな気持ちになります。温かい気持ちと、パワーをもらっています」と目を細める。

「ずっとずっと、ここできっと続けていたい。修理に来る人、子どもや孫を連れてきてくれる人を、この店で迎えたい」と10年後20年後の夢を話す東之華さん。「家族の思いがこもった人形に触れて、厄をもらってほしい、子どもは穢れない純白のままで」とそんな思いをもつて人形づくりを続けていく。



スタッフ小野田展子さん（左）現在人形づくり修業中。女性の気持ちを大切にしたいという東之華さんが修業に受け入れるのは、女性のみ。店のスタッフも女性だけで行っている



information
人形巧房 ひなや
場所 草津市草津14-30
電話 077-563-8900
<http://touka-hinaya.com/>